

埼玉県熊谷県税事務所長賞

税金の違い、考え方の違い

深谷市立深谷中学校 三年 新島 沙樹

これは人から聞いた話だが、日本人と他国の人の「税金」に対する価値観は大きく異なるということだ。オーストラリアやヨーロッパの人々などは、「税金」のことで文句を言うことがないらしい。

それに比べ日本では、消費税が2%上がっただけで国民の不満の元となってしまう。決して不満に思うことが悪いと言っているのではない。わずか2%でも、物を買わなくては生きていけない私たち国民にしてみれば、大きな打撃だ。誰もが不満に思うだろう。

しかし、他国では違うのだ。それを受け入れ生活していつている。この違いは何なのか。一年間オーストラリアで生活していた私のいところに話を聞くことができた。実際、オーストラリアの「税金」は日本より高いらしい。しかし、その代わりに日本と違うところもあるそうだ。きっとそういった配慮がオーストラリアの人々の不満を和らげているに違いない。

まず、相続税はないらしい。また消費税では、生活していく中で絶対に必要なもの、果物などの加工されていないものなどには「税金」がかからないそうだ。他にも、教育費は高校まですべて国で負担してくれる。

ここまで話を聞いた私は、いい政策だな、と感心した。しかし、よく考えてみると、それ程までに国民が消費してしまうお金が減ったわけではない。

それは、よく調べれば調べるほど明確になった。日本の消費税が5%なのに対して、オーストラリアは10%。所得税は日本よりはるかに高かったのだ。

こうなると、先程紹介した政策があっても不満が出る様な気がする。少なくとも日本ではそうだろう。しかし、それでも不満が出ていないのが、オーストラリアでの現状だ。私はこの違いを、根本的な考え方の違いから来るものじゃないかと思う。きっとオーストラリアの人々は、ちゃんと認識しているのだと思う。いくら「税金」という形でお金を払わなくてはいけなくても、それは国が私たちの生活をより良いものにするために必要なお金だということ。

また、国のために国の決めたことに従おうという愛国心から来るものなんだとおもう。そういった国民の姿勢は、オーストラリアの税制の安定と国の統一感を強く感じさせる。そして同時に、とても良い印象を受けた。

これからの日本では、こういったオーストラリアの人々の姿勢を見習っていくことが必要になってくると思う。「国にお金を取られた」という感覚ではなく、「国のためにお金を使ってもらおう」という風に発想の転換をして、「税金」を納めることにしよう。